

職業奉仕活動はロータリー・クラブの金看板とも言われておりますが、職業奉仕委員会の新米委員長としては、具体活動としてどう取組むべきかについて正直な処未だ手探り状態であります。

それもあって本年度上期は、先ずできるだけ沢山の会員メンバーに個別職業活動の現場に赴いて貰い、活動の実態を自分の目で見て頂く事で知験・理解を深め、自分の仕事を通じての奉仕活動の実践に少しでも生かして貰う、そういうチャンスを増やすお手伝いに取組む事と致しました。

第一回視察先としては、今後ますます社会的に重要な位置付けとなる「介護事業」を選び、去る9月29日総勢22名の大視察団でディケア・サービスを手がけておられるケアネット(株)熊谷サービスセンターを見せて頂く事としました。

ケアネット(株)さんは当ロータリー・クラブに出身会員が居られる富士通さんの全額出資子会社であります。

当初富士通さんの国内工場のハードからソフトへの業態転換に際し、高齢女子リストラの受け皿の一つとして創設されたとの事ですが、順次工場立地を生かした地域密着型介護センター事業を拡大され、現在は全国5地域に介護サービスセンターを有する中堅規模の介護事業会社です。



当ロータリー・クラブ会員の平均年齢は66.2歳と約60%が65歳以上の介護保険対象高齢男性であり、遠からずお世話になるかもしれない身であるわけですが、幸い我々みな元気で、凡そ「介護」の法・制度内容や介護施設の実態に関する具体的知験は殆ど持合せていなかったのが実情です。

当日は、当社の松岡社長自らのご説明により先ず「介護」の法・制度内容の概要を伺った上で、事業としての「介護」の実施例としてセンター内をご案内頂き、現場の設備内容や利用者(客とは言わない)のお年寄りに提供されているディケア・サービスの実態を目のあたりにさせて頂く事ができました。視察後は、現地責任者を交えての質疑応答にも熱が入る等会員の関心も高まり、奉仕活動の精神にも通じると思われる認知症介護の心構えという貴重な教えなども学ばせて頂き、非常に実のある視察であったと松岡社長以下ご関係の方々一同心から感謝した次第です。

今や日本人の平均寿命は男性79歳余りで世界第4位、女性は86歳超で断然世界一、一方我々の平均的健康寿命は男性72歳、女性78歳といわれ、平均寿命までの差の約7~8年が要介護期間となるわけです。健康寿命を出来る限り延ばし要介護期間を出来る限り短くする為には、悪しき生活習慣の改善とその維持・継続に取組む事こそ王道であると改めて痛感した次第です。

最後に、介護で最も対応の難しい「認知症」の方に接する基本姿勢として、如何なる時でも「笑顔で優しく」接する事、更に「先ず要求を受け容れる」事の重要性を教えて頂き、加えて「フレディの遺言」(フレディ松川著・朝日新聞出版)という本の中の詩をご紹介頂きました。

その詩は我々皆が深く感銘を受けた内容であり、全国のロータリー・クラブ会員の皆さまにも是非知って頂きたいと思い、この場をお借りしてこの本を紹介させて頂く次第です。

